



Photo: Masao Nishikawa

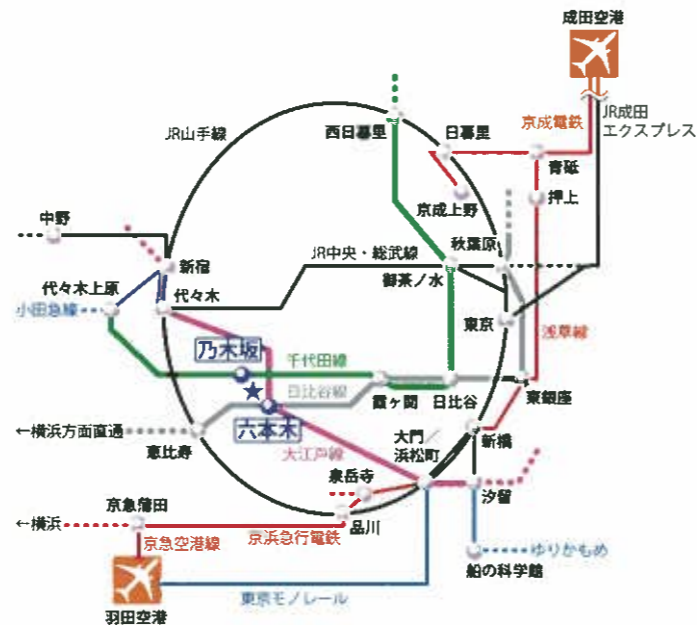
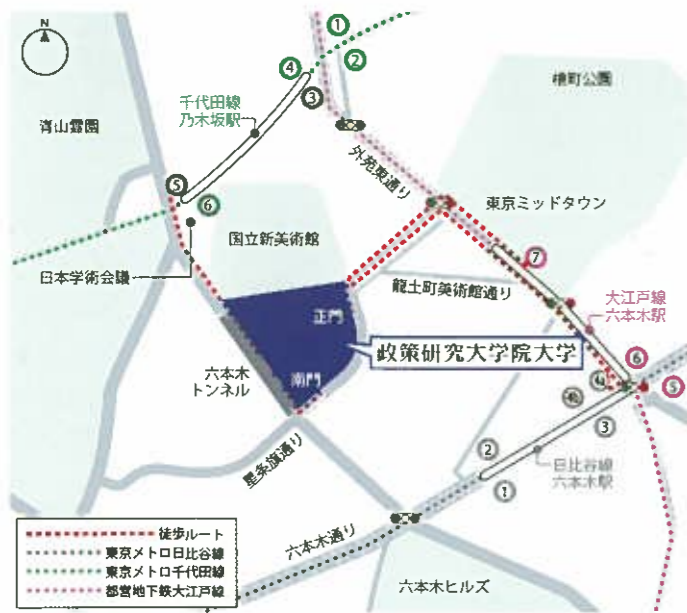
国家建設と経済発展プログラム (博士課程) 学生募集

入学に関するお問合せ先

アドミッションズオフィス

TEL: 03-6439-6046 FAX: 03-6439-6050

E-mail: admissions@grips.ac.jp



政策研究大学院大学

〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1

<http://www.grips.ac.jp/>



政策研究大学院大学

国家建設と経済発展プログラム (博士課程) 学生募集



プログラム概要

政治学と経済学の両方を用いて、国家建設と経済発展に関する高度な政策分析や政策立案に携わる人材を養成する。

政策研究大学院大学は、将来、国家の公共政策を担う指導者、政策プロフェッショナルの養成を目的とする高等教育機関です。学生の約3分の2がアジア、アフリカをはじめ世界各地からの留学生という国際色豊かな大学院で、ミッドキャリアの行政官が多い学生の間では、政治・経済政策に関する活発な議論が日々展開されています。

本プログラムは、政治学と経済学の学際的プログラムであり、開発途上国や新興国における政治と経済の相互作用に知的な関心を抱き、すでに社会科学分野の修士号を持つ学生を対象としています。政治学と経済学両方の高度な知識と分析手法を必要とする研究や政策立案に携わり、世界の民主的統治の発展と高度化に資する人材を育成することが、本プログラムの目的です。

本学では、2008年から2012年までグローバルCOEプログラム「東アジアの開発戦略と国家建設の適用可能性」を実施し、政治学と経済学の研究者が共同で研究を推進しつつ、先端的な研究を理解して政策立案にあたる行政官(テクノクラート)や若手研究者を育成してきました。本プログラムは、その教育研究拠点形成の成果の一つであり、こうした人材育成を継続し拡大するための博士プログラムです。

入学後1年間は政治、経済、歴史の授業を集中的に履修し、博士としてふさわしい知識と分析スキルを身に付けることが求められます。2年目以降は学位論文を作成するための調査、分析、執筆に専念し、3年間で学位の取得を目指します。授業はすべて英語で行われ、学位論文は政策課題をテーマとした研究、ないしは政策含意を持つ研究であり、学術的価値を持つ、国家建設と経済発展に関する英語論文とします。修了要件をすべて満たした学生に対して、Ph.D. in International Development Studies/博士(国際開発研究)の学位を授与することが認められます。

途上国や新興国の政治や経済の現場感覚を備えた人材を育てるため、現地調査の経験が豊富な教員を指導教員委員会に配置し、学生には現地調査を奨励しています。また、前述のグローバルCOEプログラムで培った若手研究者育成のノウハウを生かし、研究の計画から調査、分析、論文執筆までを指導するだけでなく、学術誌への論文掲載や学術書の刊行へ至るように指導を行います。

広く深い視野を持った政策研究

本プログラムは、高度の専門性を身につけているだけでなく、グローバル・キャリアに必要な、広く深い教養に裏付けられた政策提言や公論形成を担える人材の養成を図るべく、下記のカリキュラムから構成されています。

プログラム カリキュラム (2017年度)	
Category	Course Name
I Development Economics	<ul style="list-style-type: none"> Theoretical Foundation of Economic Policy Advanced Development Economics Applied Econometrics Strategy for Economic Development (Advanced) Mathematics for Economic Analysis (Advanced) Introduction to Applied Econometrics (Advanced)
II History	<ul style="list-style-type: none"> Advanced Global Economic History Comparative State Formation (Advanced)
III Politics	<ul style="list-style-type: none"> International Relations in East Asia (Advanced) Advanced Political Economy of Modern Japan Advanced Comparative Political Economy Institutions in Policymaking State and Politics in Southeast Asia (Advanced) State and Politics in Africa (Advanced)
IV General Subjects	<ul style="list-style-type: none"> Courses not listed in this table, admitted by the advisory committee
V Courses to be taken after passing qualifying exam	<ul style="list-style-type: none"> State Building and Economic Development Seminar Tutorial (I-V)

学位	博士(国際開発研究) Ph.D. in International Development Studies
対象	修士号を有するか、取得見込みの者
講義で使う言語	英語
博士論文の言語	英語
標準修業年限	3年(10月入学)

在学生

本プログラム在学生は現在13名です。世界各地から多様なバックグラウンドを持つ留学生と日本人が共に学んでいます。
在学生出身国(2017年7月現在): ウガンダ、エチオピア、ガーナ、カメルーン、タイ、タンザニア、ドイツ、日本、フィリピン、ベトナム



吉川愛子(日本)

I chose the SBED Program because of GRIPS's impressive line-up of scholars who specialized in development economics and worked on real-world issues and challenges. I aimed to equip myself with knowledge, skills and quantitative methods for evaluating the impact of development policies. The SBED program gave me exactly what I wanted and more, offering interesting courses and seminars. My research work received very attentive mentoring by my academic advisors.



Edwin Paul Mhede (Tanzania)

SBED is ideal for studying interactions among economics, history and politics, and their influence on development policy-making. I enjoyed taking carefully designed and rigorous courses taught by distinguished professors using case studies of development issues, econometrics and politics. When I took the Qualifying Examination, I appreciated the effectiveness of interdisciplinary study. SBED provides opportunities for learning from my peers of different cultural and professional backgrounds. My SBED course will serve me well in my career as a development policy analyst.



Benjamin Bansal (Germany)

There is hardly a better place than Japan to study the role of the state in economic development. SBED's interdisciplinary approach gives me the intellectual freedom to pursue studies at the intersection of economics, politics and history. This allows me to look at the historical experiences of Japan and other countries with fresh eyes. Hopefully this will lead me to innovative solutions to problems of contemporary development.



教員紹介

本プログラムで研究指導にあたる教員は、国際水準の開発経済学や政治学・国際関係論、歴史学の専門家養成能力のある、途上国や新興国の政治・経済を専門とする第一線の研究者です。博士レベルの教育に関しても経験が豊富で、何人もの若手研究者を育成してきました。最近10年間に18カ国52名の学生が彼らの指導を受け、現在、それぞれの国の政府機関、大学、民間の研究機関、国際機関において精力的に活動しています。さらに、本プログラムは、優れた実績を持つ学外の研究者を客員教員として招いています。

氏名	役職	専門分野
KHOO Boo Teik	プログラムディレクター、教授	政治学(マレーシア、東南アジア)、リーダーシップと開発
恒川 恵市	特別教授	比較政治学、国際政治経済学
ESTUDILLO Jonna	教授	開発経済学(貧困、社会的流動性、ジェンダー、稲作における「緑の革命」)
園部 哲史	教授	開発経済学(開発途上国における産業発展、貧困削減)
大塚 啓二郎	名誉教授、客員教授	開発経済学(農業と工業、教育、貧困削減)
白石 隆	名誉教授、客員教授	地域研究、国際関係論、政治学
杉原 薫	客員教授	経済史(アジア経済史、グローバル・ヒストリー)
武内 進一	客員教授	アフリカ研究、国際関係論
CHEN Stacey	准教授	経済学(労働、教育、保健)、応用計量経済学
KANCHOOCHAT Veerayooth	准教授	政治学(タイ、東アジア開発)、制度派経済学、産業政策
木島 陽子	准教授	開発経済学、途上国におけるミクロ実証分析
LITSCHIG Stephan	准教授	開発経済学、公共経済学、政治経済学、ミクロ計量経済学
松本 朋哉	客員准教授	開発経済学、応用計量経済学、家計調査分析
鬼丸 武士	客員准教授	アジア国際関係史、比較地域研究
河野 元子	助教授	比較開発論、資源利用型産業発展、東南アジアの地方政治
SURYOMENGGOLO Jafar	助教授	地域研究(東南アジア)、政治史、法と開発
高木 佑輔	助教授	地域研究(フィリピン、東南アジア)、政治学
山内 慎子	助教授	開発経済学・労働経済学を中心とする応用ミクロ経済学